

学びに "プラス1" ~学びを連続させるつなぐ発問~

〈小学5年「自動車をつくる工業」〉

教科書（『新しい社会5下』東京書籍）では、以下に示した①から②の流れで学習を展開しています。

① 自動車づくりはどのように行われているのか（生産・流通システム）



② これからの自動車づくりにはどんな工夫や努力が大切か（環境や安全への配慮）

今回の "プラス1" は、①と②の学習を "つなぐ" 発問をプラスすることにより、学びに連続性をもたせる実践例を紹介します。

自動車は大変便利な乗り物であり、国民生活を支える上で、今や欠かすことのできない工業製品です。下の資料は、千人あたりの自動車保有台数を示したものです。これによると、我が国は、二人に一台の割合で自動車を保有していることになりますが、世界の中では16位であり、我が国以外の多くの国々に自動車が普及していることが分かります。そして、世界の自動車保有台数の増加率は、1970年から2013年まで年率2.5%～3.5%で、年々高くなっています。（日本自動車工業会調べ）

自動車普及率（人口千人あたり）2013年【単位：台/千人】

1位 プエルトリコ	813.38
2位 アメリカ	789.61
3位 ニュージーランド	763.91
⋮	⋮
16位 日本	602.62

（出典：OICA International Organization of Motor Vehicle Manufacturers）



しかし、自動車が増えることにより、排出ガスによる大気汚染や地球温暖化の原因の一つとなったり、交通事故が増加したりするなどの問題も指摘されています。

そこで、①の学習で、自動車がどのように生産されているかについて学習した子どもたちに対して、次の発問をし、自分の考えをノート等に書かせた後、個々の考えを交流させます。



自動車が増えるのは、
よいことですか？ 悪いことですか？

この発問により、自動車が国民生活にもたらす影響の "よい面" と "悪い面" について見つめ、考えさせることができます。子どもたちからは、"悪い面" として、排出ガスが大気汚染や地球温暖化の原因の一つになることや交通事故の増加等の問題が指摘されることが予想されます。また、それらの問題を改善、解決するために、②の学習内容である、環境や安全に配慮した自動車生産や自動車利用の在り方等について、様々な意見が子どもたちから出ることが期待でき、②の学習へつなげることができます！